
零番隊長転生記

死神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零番隊長転生記

【Zコード】

Z6624Y

【作者名】

死神

【あらすじ】

零番隊長が無断で現世に普段着で遊びに来ていた。だが来た時トラックに気づかず轢かれてあっけなく死亡した・・・が、死んだはずなのに生きていた。死神の力は継続しているだから助かつたと、思いきや全体が縮んでいて隣にはルフィが！前の生活習慣とは全然違う新しい暮らしに苦労しるわ、海賊がうじやうじやいるわ。と、大海賊時代で頑張る話。

1 第一の人生の始まり

「あや、あや？（ここは、どこだ？）」
ん？ひつひつと、待った。あや？ひつてなんだ？

「あやあやー！？（お前は誰だよ！？）」
いや・・・・何故普通に喋れないんだ？

？？「おー！レオ！兄ちゃんだよーーー！」
兄ちゃん？なんだ、この子供は。

？？「おい、ルフィ。『ゴム人間なんか嫌われるだけじゃねえのか？』
ゴム人間？
あと、この餓鬼は『ルフィ』って言つのか。じゃあ、あのおっさん
らは？」

ル「シャンクス！嫌われないよー！レオだつて笑つてるよ。」
まあ、嫌われないように笑つてるだけだが。
で、このおっさんは『シャンクス』か。聞いた事は無い。

ル「シャンクスへ、海賊船に乗せてよ~。」

・・・・ん？ひつひつと待てよ。海賊船？海賊が居るのか？

いや、海賊なんて現世でも見たことが無いぞ？ひつひつと、記憶整理
するか。

たしか、1時間前俺は山じこに無断で現世に遊びに行つたんだっけ？しかも、普段着に着替えて。これはもう違反行為なんだけどな。

・・・・・あ。俺、現世に着いた時、体に物凄い衝撃を受けたよな。確かトラックに轢かれたっけ？ああ、なんて馬鹿なんだ。

だから、今体が小さくなってるんだな。・・・・体が小さく？

まさか、転生つて奴か！？乱菊が言つてたな。確かによく小説に出でくるつて。現世で流行つてるつて。俺はそのパターンか・・・。だとすると、前とは違つ世界になるよな・・・。だつて海賊が居るじ。

このおっさんも海賊か？へへ、海賊には見えないけどな。そりそろなんか喋つてみようか。分からぬいだろつケド。

「きやき？（ルフイ？）」

ル「シャンクス！レオが今！ルフイつて言つた気がする！」

シャ「何！？レオ！おれの名前も！」キラキラ
キラキラしてゐなー。

とりあえず言つておくか。

「ちゃんくしゅー（シャンクス！）
あれ？なんか言えるようになつた？

シャ「おおー！」

? ? 「おれはルウ。言つてみて！」

גָּמְנִי

あ、言えるよつになつたかも。

ルウ「おお！凄い！」

？？「おれはベンだ。」

「ええ!? ベンも頼むのか!?

べ「別にいいだろ?」

「ベソ！」

完璧に言えるし。

「レオ、凄いぞ。」

ありがとうルフィ。でも……なんか……眠くなってきた……

「ふあー！（はうーー）」「

寝てた・・・・・○」。

ル「あー！起きたー！」

ドッカアアン

「ふえ！？（何だよーー？）」「

何が起きたーー？

あと、シャンクスは？居なくなってる。

ル「大変だ。じいちゃんが帰つて來たー！」

いや、普通そこ喜ぶといひだぞ？

うん？海兵？

海兵「ガーブ中将ー手荒ですー！」

ガ「うつさいわいー」

海兵「？あー！」

ガ「なんじゃ？」

海兵「先に行つてますー！剃！」

剃？剃つて何・・・・瞬歩より遅いじやん。なーんだ。

スタッ。

海兵「君がルフィ君？で、この子がレオ君？」

ル「そうだ！」

「ふあ～！～（うん！）」

海兵「（レオ君可愛い。）向こうでなんか食べない？」

ル「え！？行く行く！」

海兵「（ルフィ君も食欲旺盛だもんな。）じゃあ、先に行つておいで。レオ君は僕が預かるよ。」

ル「おお！ はい！」

うお―――い！肉>俺かよ！？

海兵「レオ君？」

「也々一（謹々一）」

やういえば」の海兵誰だよー?・?

海兵「あ、僕はフェリーだよ。」

フヒリー！？船じゃないんだからね、もつちよつと良この名前付けてあげれば良かつたのに。可哀想。。。

「ふえりー？」

ル「あーちゃんと言つた! レオすげー!」

ありがとう。

フェ「！？まだ生まれたばかりなのに。天才かなー？」

うーん。どつちかというと、前世の記憶があるからだよ。でもさ、死神の力はあるんだ。あの黒鷹と銀虎と青龍が精神世界に居るのを確認したからな。

ガ「ほー。さすがわしの孫じや！」

え？この人が俺の爺さん？・・・え？このジジイなんか強そうだな。

なんか俺、今日から新しい人生ですが調子が狂いそうです。

2 修行で誤つて

あれから、4年の歳月が経つた。

え？ 経ち過ぎ？ だつて何も無かつたし。あ、エースには会つた。サボにも。

で、今無人島に居るんだよねー。なんでかな？ このジジイ！ 覚えてろ！

何か無いかなー？

ガオオオオ！！

うん？ 巨大な・・・熊？ え！ ？虚並の大きさ！ ？何コレー・コルボ山より大きいよ！ ！

ガオオオオ！！！

てつてれー とりあえず逃げよー。

うーん。木の上に行こー！

タツタツタツタツ。よつこいらせつーふう。登れた。

・・・・・・・・・・・・ うん？ なんだこれ。グルグル模様が付いたバナナ？ 何コレ。いいや、食っちゃえー！ なんて適当なつて言われ

۷۰

ガブツ

不味つ！－何これ。最初辛いと思つたら苦くなつて。ああ！－何だこれ！－

うう・・・・・痛い目に遭つた。

ガオオオオオオオオ!!!!

やつべー! 着つてきやがった。

降りよう。

ガ才才才！！

飛べたらいいのになー。

バサツ、バサツ。

スタッ

ええええええ！……なにこれ。

ジャバアアア

え？水？

ペロッ・・・・・塩辛―――い――海水だ――――――――

なんなの――――。こんな無人島やだああああああああ――――

出る――――――――

バサツ、バサツ。

え？今の格好は・・・・・隼！？さつき水で今は隼！？

なんなんだよ！」の世界は！

「どうなつてんだああああああああああ――――――――

つて、飛びながら叫んでたら、

ヂンヂ――――!

何かに・・・・・・マストに当たつた。海軍軍艦のマスト。

何故か元の姿に戻つたが、そのまま落卜。

ドリツ。

「痛い――。」

フニ「! ? レオ君! ?

フェリー? フエリーなの?

ガ「なんじや、ビツした・・・・レオー? なんだ? これに困る? じや
!」

なんで? のジジイが居る? ・・・・ジジイの軍艦に当たつたのか――?

「うう・・・・」「(泣)

俺つてこんなに泣き虫だったか?

ガ「うー、コターン、じゅー!」

コターン? ビ? 行くんだ?

ガ「海軍本部に戻るぞーー最速でのーー」

海兵達「「「「さつ……」「」「」「」」

息ぴったりだな。じゃなくて、頭が…………おれ。

バタリ

フユ「レオ君ーー?」

俺の意識はついで一旦途絶えた。

2 修行で誤つて（後書き）

いつも思つけど、他の人と比べると短い・・・。（汗）
一応努力しようとしますよ。

3 悪魔の実つて何ぞや？

ハロー、ハロー。エブリバディ！（某21世紀少年2弾の）・・・・
じゃなくて、こんにちは。俺は、モンキー・D・レオ。なんで苗字
が「モンキー」なの？あとこの真ん中の「D」は何？なんかの略か？

只今、海軍本部と言つ所に居るやうです。

まあ、俺は無人島で巨大な熊に追いかけられて木に登つてぐるぐる模様の変な実を食べて、何故か水とか鳥になれて飛んでたらジジイの軍艦のマストに当たつたつと言う事故が起きて今に至るわけ。

もう、どうなつてもいい・・・・いや、良くない！俺は、戻る！
東の海に戻るんだ！

「俺は、東の海に戻る！」

と、言つてみた。オリス広場で。

ガ「何言つてんじや！最強の海兵になるんじや！」

「俺まだ、4才ですが！！」

「4才にしては賢いよな。」

「でもさ。無理でしょ。」「」

ガ「駄目じゃー！最強の海兵になるんじゃー！」

「あ、そういうえほさ。」

ガ「スルーーー？」ガ———ン

「ぐるぐる模様の果物見つけたんだけど。」

ガ「何！？」

「なんか知つてんの？」

ガ「それは、“悪魔の実”じゃー！」

悪魔？ 悪魔の実つて何ぞや？

「何それ。」

ガ「今、レオが言つた果物の名前じゃ。」

「へー。変な名前。」

フエ「まあ、確かに。」

ガ「その実どうした。」

「食つた。」

ガ「何で食つたんじや！」

「無人島で熊に追いかけられて木に登つたらそれがあつてなんとな
く食つた。」

「汎」適當・・・・・

ガ ー 何 の 実 じ や ?

えーと、確か鳥になれて

ガーリトリの実が

「水にもなれたに」と云ふ

力 何 ! ? 種類 ! ? 科学班 | | | | | | | | | |

はしはしはしはし
なんてじき

諸たよお前

？？一ルリアです。科学2班長です。なんでしょう？

力 何じゃーだけ?」

「はあ。えーと、鳥になれて「トリトリの実ですね。」最後まで人の話を聞けええ！！！」

ルー「すみません。」

「水にもなれたんけど。何の実?」

ルー「あ、それ実際に在ったんですね。その実はトリウミの実です。」

「

「トリウミの実?」

ルー「はい。鳥ならなんでもなれますし、海人間にもなれます。」

「わお。すっげー実食つたんだなー。」

ルー「悪魔の実の能力者全員、海が弱点で海水に触れると力が抜け
る。でもレオ君は海人間でもあるから力ナナズチにはならないね。」

「へ~。って言ひ事は、ルフィにも勝てるのか。」

ガ「そうじゅの~。じゃなくて、^{ハジ}海軍本部に残れ。」

「やだ!戻るも~ん!」

嫌だよ、こいつ。

「今度来るから~。それで良い?」

ガ「う~む。分かったわい!」

「じゃ、バイバイ!」

鳥に～なる～う 何にし～よお～かな～

「アーニー。ジーナちゃん。」

ガ「お?なんじや?」

「鳥つて言つたら？」

ガ「焼き鳥」

「食い物しか思いつかねえのかこのクソジジイ。」

フューフュニックスとかは?

「フェニックスって不死鳥だろ？」

フユーうん。（あ、不死鳥マルコと同じ？）「なつてみよう！」

ボワアア

「本當になつちやつた。」

「才能ありますね。」

「じゃあね――――――――!

バサツ、バサツ

ふう。これで戻れる――――――――――――――！

3 悪魔の実つて何ぞや？（後書き）

キャラ壊れた . . . 。

4 6年後

ドーン島に無事帰還し、途中コルボ山でルフィイとHースと決闘したが、基本的にフーシャ村で手伝いをしていました。

なんで、フーシャ村に居るか。それはコルボ山に行つた時の事をちよつと話してみれば分かつて貰えると思う。

「帰還してから2日後」

俺はコルボ山に久しぶりに行つてみたくなった。サボが行方不明なのは知ってる。

ドンッドンッ！

ダ「誰だい！」これは山賊の家だぞ！・・・居ない？」

「お邪魔しま～す。」スタスター

ダ「下！？てか誰だよ！」

「ルフィイ！エース！」

ル「ああ！レオ～！！！」

エ「レオ！？」

ダ「レオってコイツか？」

ル「そうだ！」

エ「大きくなつたな」。

「あ、どうもこんにちま。」

ダ「お、おう。」

「俺のバカズがお世話になつてます。」

ダ「バカズ?」

「ヒースとルフィの事。」

ダ「ああ、なるほど。」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

ダ「モンキー!?」

「ガープの孫で、5つ違いのルフィの弟です。」

ダ「ルフィの弟!?逆じやねえのか!?」

「いえいえ。事実です。」

ダ「…………」(驚)

驚いて固まつてるよ。

「そついえば、ルフィ。俺も能力者になつたぜ?」

ル「なんの実だ？」

「トリウミの実。さつき2日前に海軍本部から帰還して来たんだけ
ど、聞いたらそれだつた。しかも希少種なんだよ。希少種は全部で
4つ。その4つの内の1つだよ。」

ル「えええー————！」

H「一日前は海軍本部に居たのか！？」

「おひ。」

ダ「なんだつて————！」

あ、そういう『おばさんカーリー・ダダン。

マ「まーまー、お頭落ち着いて。」

こいつ能力者じゃないけど顔が鶏人間のマグラ。山賊なのに常識人。

ダ「お前はここにか？」

「いや、俺はフーシャ村に住んでる。たまに遊びに来るけど。」

ダ「そうかい。」

「だつて、この2人だけでもつらうでしょう？」

ダ「分かつてくれるのかい？」

「ああ。」

ダ「すまないね。」

「ああ。俺、もう村長家に戻らないといけないから。じゃあな！」

ル「また来いよ～～～！」

H「また来いよ～～～！」

そう、あの一人は食欲がヤバイ。ジジイが居るみたいなもんだし。ちなみに俺は普通の量だ。たまに食い過ぎるけど。

そして、フーシャ村では。

「なあ、それ持つていいくよ。」

『すまないね。じゃあ、あそこの倉庫を持って行ってくれるかい?』

「了解。」

倉庫から距離は100㍍そんなに遠くない。

さつさと運んで次に移る。結構早くこなしてゐる為、村人や村長にも褒められてる。

普通の子供なら喜ぶけど、俺は普通にする。

村長に「お前は大人になつたら何になるつもりだ?」と言われた。エースとサボとルフィは海賊だが、

「俺は海賊になるつもりはない。賞金稼ぎか海軍だ。」と答えたと

HNは、とわわた
どんたに心配してんたよ
海賊なんてなりたく
ねえよ。

たまにジジイがやつてきたりしたが無事に帰つてもらつたりして、
6年後。

ルフィは15才。エースは18才。俺は10才になつた。
去年エースが海に出た。今日の新聞に手配書が出ている。
政府は一応危険視はしているようだ。

この日は何故か海軍本部の巡回船が港にやつて來た。どうやら、俺がここに居ることが分かつたようで巡回しているついでに來たといふ。海軍本部に来て検査をするだけと聞いて、ルフィや村人に説明し、巡回船に乗り込む。そして、出航しドーン島から離れた。

この船は巡回船兼快速船だった。しかも、Jの快速船世界最速のようだ。4時間後、エニエスロビーについた。

דָּבָר

正義の門つて言う巨大な扉が少し開く。しつかしデカイ。なんだよ
この大きさ。邪魔だなー。

ん?何か見えて・・・目的地の海軍本部か。あ、じいちゃん発見。
でも、検査だけじゃないと思つんだよなー。嫌な予感。

4 6年後（後書き）

時間経つの速いです。

5 ややこじい名前の所で検査すんな！

6年ぶりの海軍本部。そんなに変わらないな。

ガ「レオ？」

しつかし、馬鹿でかいよな。でも空座町にはそれより、テカイのがあつたけ？あやふやだな。何回も行つてたのに。

ガ「聞いたのかー？」

「ん？何？」

ガ「やつぱり「フヨリー」、検査早く終わらせたい。」・・・・「ガ
――ーン

ふう。海軍に入れ！って言われそうだった。危ない、危ない。

フヨ「あはは。ガーブ中将ドンマイです。」

「フヨリー！..」

フヨ「あ、はいはい。じつちだよ。」

あんなジジイどつか行つちまえ！

なんて思いながらフェリーの後に付いて行って3分。着いた場所は

“検調査用特別大部屋”。

名前長くね！？

・・・・・うん？検調査？検査と調査の略語！？ええ！？検査だけじゃなく調査もすんの！？

やつぱり、嫌な予感は当たるんだね。

ガチャ

ああああああああああああああああああ！…………フェリー開けやがった！……

「え？何この大人数。」

フェ「大丈夫。科学班はあの扉の向こうだから。」

「まだ居るの！？」

フェ「僕は付き添いですが、ここに一応残つておきます。」

『はつ……』

フエー まずは身体測定だから。ほらカーテンの中に入つて。」

一
はいはいはいはい

（どんたに嫌かでんたよ）

カーテンの中に入つたら、張り紙が書いてあつた。

“この用に着替へくわいたがさい 手て物は此處に置いておきたがさい”

シャー

「なんで海兵服?しかもシャツでかいよ。」

「前もうかないと背伸びるよ。」

フアーハイハイ

『あの、喧嘩はやめてください。海兵服なのは気にしないで下せ。』

「はい。」

『それでは検査を始めるので。 . . .』

検査の内容は、身体測定・体力テストだ。

まあ、こんな感じの事を書いてもつまらないから省略。
ちなみに結果だが、（この中は作者が10の時の結果。）

身長 - 151 . 1 cm (同じ)

体重 - レオ「書くな！これだけは！」秘密

握力 - 右21kg 左20kg (同じ)

ハンドボール投げ - 34m (10m下がる)

ハンドボール投げは俺に合わせてか、野球ボールだった。

反復横とび - 40回 (÷2)

全体起こし - 46回 (20)

幅跳び - 2m (1 . 40m)

長座体前屈 - 35cm (48cm)

持久走1km - 5分47秒(7分)

つて感じだ。…………何故作者も参加してるんだ？結果だけ。

フエ「はーい。終わり。」

「ふう。……え？ 終わり？」

フエ「そりだよ。調査はやらないから。」

「良かつた——。」

フエ「はーはー。着替えて。」

つて、ややこしく前の方に連れて来るなよ——

もつと分かり易い所在を思ひがつたく。

5 やせりこで以前の所で検査すんなー（後書き）

なんか今回も短い気がする。短い？・・・・やつぱり短いよねー。

はあ。今テスト期間なんです。だから短い・・・・です。

6 ルフィの旅立ち

俺がフーシャ村に帰還して翌日。

ル「レオ！」

もうルフィ行っちゃうのか。

「てかルフィ。 大樽を乗せたボートで行くつもりか？」

ル「いいんだこれで……」これから始めるんだおれは……

『ボートつてお前~~~~~！』

ル「サボ~~~~~！！！見ててくれ！！！おれも海へ出るぞオ
~~~~~！！！」

「サボ……本当に見ててくれよ？あの弱弱ルフィが海に出て海賊  
になる所を。」ボソッ

『？？』

ル「サボが一番……！……エースが2番目……おれは3番目だ  
けど負けねエゾ……！……待つてろよエース……すぐに追いつくぞ……！

「！」

「そうなると俺は最後だな。海賊じゃないけど。」

『なんだルフィー！叫んだりブツブツ言つたり何かのまじないか？』

確かにそう聞えたりするかもな。俺達以外は。

『エースって誰だ？』

あ・・・そうだ村人は知らないのか。

ル「まじないじゃねエ挑戦状だ！..！」

『？？』

ル「じゃ...おれ行くからよ...！」

「ああ。ルフィ、仲間集めてエースや俺に勝つて頂点を目指せ。行つて来い！..！ルフィー！」

ル「おう！レオ！お前が海賊じゃなくてもおれは海賊だ！海賊らしく奪いに来るからな！」

「ハハッ。どこかで待つてる。」

グオオオ！！

『まよい！近海の主だ！』

「ルフィ。お前の強さを見せてやれ。」

「レオー今まで俺を強いてくれてありがとうーあとここ倒すからよー。」

「ああ！倒して行け！！」

「ゴムゴムのホース・ホース・ホース  
銃！」  
ピストル

ガアーン！ ザツバアアーン！！！

わあああああああああああああ

「必死で会おうな」

ル  
す  
一  
一  
一  
つ。  
」

「うん？あの台詞か？」

ル「よつしまへ行くぞ――海賊王におれはなる――。」

「行つて來い。」

## 6 ルフィの旅立ち（後書き）

一応ここは原作を使いました。

## 7 2年後ではなく来週に

ルフィが無事旅立つたその後、俺は村長家でボ————ツとしていた。

『プルプルプル』

あ？電伝虫？

『プルプルプル、ガチャ』

とりあえずとつてみる。

『村長？』

「なんだ、じいちゃんか。」

『おお、レオ。じいちゃんじや。』

「で、用件は？」

『ルフィは居るかの？』

『ルフィか？もづ「ルボ山には居ないぞ？」』

『何！？何処に居るんじやー。』

「海。」

『海じゅとへ。』

「アハ、海。わかつボートで海に出た。近海の主を倒して。」

『何?..』

「海賊になつたよ。無事に。』

『何が無事じゅ。』

「まつ、大丈夫だろ。ルフイだし、俺が教官として鍛え上げたからな。」

『何?そんな事じゅたらわしが云を放けるの。』

「ルフイが「じこひやんはおれを殺そつとするから嫌だ。」って言つてたからや。』

『違つわーー。わしは最強の海兵にしてよ!』

「無理だよ。ルフイは何かを田端したつするとなかなか折れないし。」

「

『むつ。じあ、レオは?』

「俺は、海賊にならなこからな。別に誰が誰かそれても良いけど。』

『何故じゅ。』

「そんなの気にしないから。狙われても勝つ自信あるし。」

『わしは指名手配にせんーから大丈夫じやー。』

「サンキュー。」

『ちょっと待て。じゃあ、レオも出るのか?』

「ああ。多分一年後かな?」

『何故一年後なんじや?』

「Hースもルフィも17歳に出てるから。」

まあ、俺の場合、体が今年でストップするから分からないけどな。  
不老不死状態になってるんだよ。まあ、死神のままだし。

『なつ、海賊と同じにするなー。』

「分かったよ。俺は来週出る。」

『やうしゅ。』

「ああ。じゃあなじいちゃん。」

気づいてる奴もいるだろ?。俺があのジジイを「じいちゃん」って  
言つてる事を。これは完璧にルフィの影響だ。ルフィに「レオもじ  
いちゃんって言つてよ~。」つてやふざん言われたからだ。はあ、  
あの時は疲れたぜ。

でも、来週か。  
ルフィに会つたりして。  
(笑)

## 7 2年後ではなく来週に（後書き）

予定決まつたぞ――――――  
今日更新するよ！

## 8 旅立ち

あの電話の口から一週間が経過。

『フーシャ村の港』

『船で行かないのか?..?』

「ああ。俺は特別な能力を生まれつきで持つてない。」

『そつなのか。』

「ああ。鳥で行く。」

『氣を付けるよ。レオ。』

「ああー。」

『ガープの奴には言ったのか?..?』

「先週じこちやんに言つたよ、村長ー。」

『そつか。』

「もしかしてルフィに合えたりして。」(笑)

『あ、くれぐれも海賊にはなるなよー。』

「わーてるつて!もう。心配しすぎー。」

『ふふつ。気をつけてね。レオ君

「マキノさん。行つてきますー。」

『行つてらっしゃい。』

「俺は4番田か。じゃあー！」

俺は白い不死鳥になる。

『わああああああああ

『初めて見た。』

バサツバサツ ヒュ――

無事フーシャ村から旅立つた俺は自由氣ままに島に行く。

サボが1番、エースが2番、ルフィイが3番、俺が4番。

海賊。

海賊。

海賊。

自由に航海。

なんだこの4兄弟。俺だけ自由氣ままに航海かよ・・・。  
へんな兄弟だな。

笑われそう。  
た・・・。  
・・・・・。  
誰にだ？俺も分からぬこと言つちまつ

## 8 旅立ち（後書き）

短い―――。『めんなさい』。見捨てないで―――  
だって、タイトル通りに書いたらこうなった―――！

## 9 赤ツ鼻捕獲

この人達いったい何者？

なんとなーく飛び続けていたらサークルス集団が居たからなんとなく寄つてみたけど・・・海賊だつたらしい。しかも胴体が無い！？本当に何者？

？？「おいー聞いてんのかー！」

「聞いてるよ。赤ツ鼻。」

？？「！・・・貴様～～～！！！」怒

「あー、相当怒ってるよ？誰のせいだろうな。」

海賊「「「お前だよ！～！」」「バシッ

突っ込まれたよ。

？？「俺はな！“道化”のバギーだあー！懸賞金1500万Bだあ  
！～！」

「なんだ。たいした事無いじゃん。」

バ「なんだとお...!」

「だったら、俺の兄の方が強いと思つがな。」

バ「兄?」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

バ「モンキー?...はつ...まさかつ!」

「兄はモンキー・D・ルフィ。知つてるか?」

バ「なつ!...その『ム・野郎』にさつき倒されたんだよ!...」

「あ、なら俺と戦わない方が良いよ?」

バ「何故だ!」

「ルフィを強くしたのは俺だからな。しかも、ルフィに負けた事無いし。」

バ「なんだと!?」

「でも、捕まれ。」

バ「は?」

「破道の四、白雷。」

海賊！――ギヤアアアアア――！」

よし、これで海軍基地に持つて行こう。

あ・・・俺能力あるじやねえか！悪魔の実の！それで行こう！

じゃあ、鳴で行く？下に網持つて。漁師に貰つたし。

「めつけめ！」

バ  
サ  
リ

「俺ら、捕まつたーーー！」

海賊「…………ええええええ…………」

鷦になつてゐ俺はそいつらに言つ。

「今から牢獄行きだ。ありがたく思え。」

ははっ！ルフィより強いからな簡単だ。

海賊「「「はあああああ………」」

バ「ここまでか・・・。」

ネガティブな船長だな。こんな海賊団は簡単に滅びるぞ。

『海軍159支部』

ここは港?で良いよな?じゃあ、海賊団を渡しに行くか。ちなみに海賊船はもう海の藻屑これだ。帰れないから住居を『え』てやるって言った。まあ、牢屋だけどな。

兵「うん?なんだあの力モメ。」

「よいしょ〜〜!〜!〜!」

兵「能力者!?」

兵「何事だ!?」

ジャキンッ

人型に戻つたら銃向けられたよ。別に襲いに来たわけじゃないのに。

「あの〜。」

兵「なんだー。」

「『マイシーリ』を渡しに来ただけなんだけど？」

兵「え・・・・申し訳ありません！銃を下ろせー。」

兵士達が銃を下ろす。

兵「それは・・・道化のバギーですかー？」

「うさ。」

兵「では、受付に来てください。それも持つて。」

「分かった。」

受付員「ああ。報告は受けけてます。えーと、お名前は？」

「モンキー・D・レオ。15歳。」

受付員「じゃあ、出身地は？」

「東の海ドーン島フーシャ村。」

受付員「少々お待ちください。」

待つていろといふと、海兵が来た。

海兵「あ、換金はいりません。」

付いて行くと、でかでかと“換金所”って書いてあった。

ガチャ

海兵「えーと、道化のバギー1500万Bでいいね？」

「はい。」

海兵「おーい！1500万！」

「あ、ちょっと待つて。」

海兵「持つてあたせ。まじょ。」

どんづー物凄い量の札束だな。こんなにいらなくって。

海兵「ちょっと待つたって、どうした？」

「そんなにいらない。」

海兵「え？」

「1000万で良い。500万は返す。」

海兵「お、おひ。」

海兵「何でだ？」

「だつて一人だぞ？また捕まえれるし。」

海兵「そつか。よし、偉い！」

「まあ、こきなり保管していた金が1500万も消えて、なんか起きた時に後悔しないようこそ。金は大事にな。」

海兵「ああ。頑張れよー。」

「サンキュー。」

レオがいなくなつた換金所では、

海兵「なんか15歳に大事な事言われた・・・。」

海兵「ああ。でも、モンキーってなんか聞いた」とあるよな？

海兵「ああ。なんだつけなー。海軍に居たよ!つな?」

海兵「まあ、いい。仕事・・・・つてそんなにないか。」

レオの印象が強かつたようだ。

## 9 赤ッ鼻捕獲（後書き）

ルフィ達って進むの早いよねー。だから書き易い。

## 10 自称 元海賊団員（前書き）

なんか今のところ毎日更新中でしたー。

## 10 自称 元海賊団員

海軍基地で1000万Bを貰い、どつかの村を探していたら島を発見。

その村の名前は“シロップ村”。

甘そうな名前をしてるな。なんでシロップなんだ?どこを見てもシロップと関係があるのは無いし。そんなことは、置いといて。

? ? 「海賊だあああ……」

海賊?どこにも居ないが?

? ? 「一人海賊だああ……」

もしかして俺のことか?

? ? 「わああ……見たあああ……」

俺だな。

「ちよっと、待て。俺は賞金稼ぎだ。」

? ? 「なあーんだ。賞金稼ぎか・・・

? ? 「ええー?」

?・?・「賞金稼ぎ?・?・」

?・?・「見えない。」

「何だと?」  
「イリシ

?・?・「ああー怒らないでー。」

「怒つてねえよ。」

?・?・「お前は誰だ!」

「・・・・・お前から名乗れ。」

?・?・「おれはペーマン! 将来の夢は、大工の棟梁になる」と。」

ペーマンって、おー。髪型もペーマンだな。じゃあ、もしかして? イツは、たまねぎか? でもう一人は・・・・? こんじん? なんでこいつだけ分かりにくいんだよー。」

?・?・「おれはこんじん! 将来の夢は、小説家になる」とー。あとおれは情報収集が得意だ!」

あ、こんじんで合つてた。

?・?・「おれはたまねぎー。将来の夢は、酒場の経営をする」とー。」

「俺は、モンキー・D・レオ。賞金稼ぎをやつてこる。夢は・・・この世界を変える。大海賊時代を終わらせるのが夢だ。」

た「ええ！？」

に「ちよつと待つた！モンキーって・・・麦わら帽子の。」

「ルフィイか？」

に「そうそう！そいつ！カヤ嬢を守ってくれたんだ！」

「そうか。俺はルフィイの弟だ。」

ピ「おれたちは元ウソップ海賊団員だった！」

「自称な。あと、海賊じつじだらう？たぶんルフィイは自称船長を仲間に入れた可能性は高いな。」

た「入れたぞ！」

「やつぱり。」

あの馬鹿何やつてんだ。もう。

あと、どこに居やがるー。

そんな事を考へてるときルフィ達はココヤシ村で魚人海賊団と戦闘

中で、

レオは“自称”元ウソップ海賊団員の9才少年3人組と仲良く会話を  
中だつた。

シロップ村を出発して、航海中・・・・いや、航行中だ。飛んでるし。

ん？大海原に小船一隻発見！行つてみよう～！

「」んちは～。」

？？「誰だ。」

「うん？」

？？「ミホークだ。」

「ミホーク？」

「貴様は？」

「モンキー・D・レオ。」

「」麦わらの兄弟か。」

「あ、そうだよ。俺はルフィイの弟。」

「あの台詞、あと何回呟つんだろ？」

「ミ「そ、うか。」

「ミホーク、ここは何処だ？」

「ミ「バラティエの前だ。」

「ああ、あの噂の戦う哥クが居る海上レストランか。」

「ミ「行くのか？」

「いや、腹へってないし。兄とは全然食欲が違つからな。あとじい  
ちやん。」

「ミ「普通の量か？」

「ああ。ミホークって、異名ある？」

「ミ「『鷹の爪』だ。」

「へへ、聞いたこと無いや。」

「ミ「海に出たばっかだろ。」

「ああ。でも、俺は賞金稼ぎだけどな一応。」

「ほほつ。捕まえるのか？」

「いや、今はそんな気分じゃない。」

「……残念だ。」

「はあ？」

ミ「一回、実力を見てみたいと思つてな。あそこには海賊船残つてゐる。その船を切つてみる。邪魔だ。」

「OK。」

青龍、行ぐぜ。

拔刀して、縦に大きく一振り。すると放たれた大斬撃が海賊船を襲う。

バキィイイ

海賊船は全て大斬撃にて海の藻屑になつた。

ミ「ほう。なかなかの腕前だ。」

「どうせ。」

ミ「幾分、世界でトップに立てる日は必ず来るだろつ。」

「トップか。」

ミ「そりだ。」

俺、前の世界でトップだった。靈圧とか。

「ミホークは現在トップか？」

ミ「ああ。レオなら大丈夫だ。」

「ありがと。」

何故か、世界一の剣士“鷹の眼のミホーク”と気が合うレオ。二人はミホークの小船で1時間ぐらい話していた。

第三者が見たらどう思われるんだろうか。いろんな感想が出てきそうで怖い。とレオは思っている。

逆に、将来はライバルの“赤髪のシャンクス”を超えて“海賊狩りのゾロ”も超えて世界一になるのでは?とミホークは思っていた。

## 12 サイクロン

〃「行くのか？」

「だつて、この小船。一人用だろ？」

〃「ああ。また会えるのを楽しみにしてる。」

「じゃ！」バサツ

しかし、ミホークつて世界一の剣士なんだな！すっげー……じゃなくて！んー気圧がヤバイ。逃げなきや駄目だ――――――――――！――――――！――――――！――――――！

ピュウウウウウウウウウウウウウウ――――――――――。

あ？後ろ？　　クルツ



超巨大なサイクロン――――――――――

でかつ―――何コレ。見た事無いよ。サイクロン自体。聞いたところ普通はこんなに大きく無いんだよ。

やばくね?これ、猛スピードで来る――――!逃げよう――――!

バサバサバサバサバサバサバサバサバサバサバサバサバサ

・・・・・鯖に聞えるのは俺だけ?いや聞えるよね?鯖鯖鯖・・・  
つて。鯖食いてーー!じゃねえよ!早く逃げ・・・・・・・・・・  
!――?――あれって・・・・・・

海王類!――海王類吹き飛ばされてる!ひひひひ――!――?――ええ  
え!――?――

ビュウオオオオオオ――――――――

あ？」の突風は、ここに向かつてゐる…？

ビュウオオオオ！…………！

「ギヤアアアアアアアアアアアアアアアア…………！」

吹き飛ばされたあああああああ…………！

あああああああああ――――――どつかにぶつかつてあの世…………か。

短い人生だったな…………。

## 12 サイクロン（後書き）

結構冷静ですが、たまにネガティブになる主人公。  
死にません！・・・・ですがどつかにはぶつかります。

あと、短いことにあとで気づいた。

ビュウウウウウウウ---

はい。まだ吹き飛ばされてまーす。いつまで飛び続けるんだよー。

もちろん、ちなみに元の姿に戻つてますよーーー！

突風に吹き飛ばされてから3日が過ぎたよーーー！幾らなんでも飛びすぎーーー！

ビュウオオオオ---

「ああああああああああああああああああああああああ」

「アロアロアロ・・・ピシャアアアーー！」

「おー雷~

ドカアアアアン

『あ、落雷を聞近で見たことある?・落ちたうしな音あるよ~。』  
『作者』

「おー。作者。いきなり出で来るな。

ゴジ~~~~ン

「ウハ、痛~~~~~」

ル「つお~!~レオ?~!~」

「あ?~あ、ルフィ?~」

ル「レオ~!~おれの仲間になれ!~」

「こや、今度。5回戻しちゃう。」

ル「お~!~5回戻な~!~」

「今日は一回戻。」

ル「お~!~!~」

?~?~「逃がさないぞ麦わら!~!~!~」

ル「ああ！ケムリン！」

ケムリン？なんだそれ。

ケム「ホワイトブロー……！」

うお！？悪魔の実の能力者か……煙だー。……あ、だからケム  
りんか。

ケム「くつー何故貴様が邪魔をするー！」

ル「うおー！誰か知れないけどありがとなー！ゾロ～サンジ～行くぞ～  
！！！」

？？「男の船出を邪魔して何が悪い。」

ケム「くそつーたしきー！行くぞー！」

たしきって言う女性剣士が答える

た「はいー！」

それより、あのローブの人は誰？

？？「お前はルフィの仲間では無いのか？」

「俺は仲間ではない。てか誰だよ。」

「？」「モンキー・D・ダーラゴン。革命家だ。ルフィの父親だ。」

「ふふーー？」

「？」

「じゃあ、お前、俺の父親でもあるじゃねえか？！」

「どうぞうつ意味だ？」

「俺は、モンキー・D・レオ。ルフィの弟だ。」

「？」弟が存在していたのか。」

「ねえ。」

「しつかりしていぬな。」

「俺らの一族が変なだけだよ。」

「？」

「俺はしづらく賞金稼ぎを続ける。革命家は入らないかもな。『めん。』

「謝る必要は無い。もつ時間だ。では。」

俺の実の父親は歩いて行つた。

革命家ねえー。俺も革命してみようかな?

### 1-3 革命家ドラン（後書き）

革命……………じつかですかでも？

## 14 主人公設定&オリキャラ設定

“主人公”

### 【名前】

現在：モンキー・D・レオ

元：本田翔ほんだ しょう

### 【性別】

男

### 【出身地】

現在：東の海ドーン島フーシャ村

元：不明

### 【誕生日】

現在：7月22日

元：7月28日

### 【身長】

現在：153.4cm（伸びた）

元：187.6cm

### 【家系】

祖父：“海軍の英雄”と呼ばれる、モンキー・D・ガープ。

父親：“世界最悪の犯罪者”と呼ばれる、モンキー・D・ドラゴン。

兄。

兄：“麦わらのルフィ”と呼ばれる、モンキー・D・ルフィ。

元の家系は不明。

### 【年齢】

見た目：10歳

現在：12歳

この世界の人達や生き物がデカイ為、身長的に10歳に見える。

### 【異名】

“死神のレオ”

残酷では無いが、自らが「死神が使う技だ。」と言つ為この異名になつた。

### 【能力】

希少種トリ・ウミの実。

その名の通り、鳥人間になれ海人間になれる、  
自然系や幻獣種よりも珍しい悪魔の実。  
鳥と海水を組み合わせる事も可能。

普通の悪魔の実は買う場合、1億B必要だが、  
この希少種は10億Bは要る超貴重物。

### 【戦い方】

・斬魄刀（一～三刀流）

- ・靈圧や霸氣
- ・悪魔の実の能力
- ・特殊能力

## 【霸氣】

霸龍の霸氣

武装色や見聞色が無くてもこれが三つすべて機能できるチート霸氣。

## 【弱点】

- ・暑い所
- ・信号機（三大将）と大仏（元帥）（海軍本部で散々な目に遭つた為。）

## 【その他】

最初は賞金稼ぎを行つてゐるが、ある事をしてしまつた為、賞金首に。でもある人物を捕まえ、海軍に協力した事から元賞金首になる。その後は、本編にて。

ローグタウンで偶然会つた兄ルフィに5回目に会つたら仲間になると約束するが、性格上仲間になる確率は結構低い。

## 【転生の原因】

現世でトラックに轢かれた事故。

= オリキヤラ =

【名前】

フライント・D・フヒリー

【性別】

男

【出身地】

東の海ドーン島フーシャ村

【誕生日】

6月21日

【身長】

236.8cm

【家系】

父親：“海賊潰し”と呼ばれる、フライント・D・ベック。  
(階級は海軍本部少将。現役海兵。)

モンキー・D・ドラゴンが義理の兄。

【年齢】

24歳

【異名】

“刀斬り”

【階級】

海軍本部少佐 海軍本部中佐（来月）

【戦い方】

・六式

・最上大業物の鬼神きしんと大業物の和邊霞わへんかいか一の一・二刀流。

【霸氣】

見聞色と武装色の使い手。霸王色は存在しているが覚醒していない。

【弱点】

- ・ガーブの拳骨
- ・寒い所
- ・暑い所

## 14 主人公設定&オリキャラ設定（後書き）

こんな感じです。なんか質問あつたら、一言欄に書いてください。

## 15 偉大なる航路入り

それから3日後。今、俺は偉大なる航路つて所へ無事に入った。

偉大なる航路はある意味、海賊の墓場らしい。ルフィが無事に航海していればいいけど。祈つておいたから大丈夫かな？

で、ここはビーチ。歓迎されたけど。賞金稼ぎだらけ?の町・  
や、島?

「あの~。」

なんか声をかけてみる。

「はい。なんですか?」

「ここはどこですか?」

「ウイスキーークです。」

「へ~・・・って、君、ちょっと、耳貸して?」

「あ、はい。」

「あ、そこの男性も。」

「マ~マ~マ~はい。」

三人で人が居ない所へ行く。

「君つて、アラバスタ王女だよね？」

「えー？」

「あーあまり、声を出さない方がいいよ。」

「そういえば、ルフィがここに向かってくるのを確認したから。

「何かあつたの？俺、一応、賞金稼ぎだけど、『J』の組織には所属していない。」

「分かつたわ。」

王女はビビと呟つようだ。そして、今自分の国の状況を話してくれた。

「OK。もうすぐ、ある海賊団がここに来る。その海賊団はビビを助けてくれるはず。その船長は俺の兄。名前はルフィ。俺はレオ。ルフィは良い奴だから。その海賊団にちゃんと話してみろよ？俺はもう行くから。じゃあな！」

「あ、ちょっと待つて！ルフィさんに異名は？」

「通称“麦わらのルフィ”だよ。兄達に助けて貰つとけ。じゃ！」

「ありがとう！レオさん！」

「おひー！また会おひー！」

あ、そういうえば新聞。

ペラリ

東の海の賞金稼ぎ、通称“死神のレオ”偉大なる航路に入る。

え？俺の事書かれてる！？まあ、今も死神みたいなもんだし別に否定はしないけど載せるか？ただの賞金稼ぎだぞ？

ん？「特徴は懸賞金全額貰わない」と。・・・まあ確かにそうだけどさ。え？みんな全額貰つの？そんなに要らないと思つぞ？何に使うんだよ。

まあ、いいや。とにかく、旅に出よう！・・・ついて、おひー出でるか。

15 偉大なる航路入り（後書き）

短くてすいません！！

「うう。寒つ。」

「！？レオ！！」

「ああ！エ——ス——！」ガバツ

寒いところに自然系メラメラの実を食べた炎人間こと、  
と、海賊王の息子エースが現れた。

「どうしたんだ!?」

一  
温かい

寒かったのか

二

万ハノタヒカラ行くニ定ナムナヘト  
行くガニ

100

まし ストライカーに乗ってくわ

一分がつた

（1日後）

「おい！起きろ！」

「ふあい！」

「レオ？」

「・・・？」

「大丈夫か？俺今から飯屋行つてくるから。後で来いよ。」

ダダダダダダダダダダ

「・・・・・速つ！！」

感想これしか思い浮かばないよ。

そう言えればエースが言つてた“黒ひげ”って何？

ひげ？ひげがどうしたのかな？今度、海軍本部に行く事が会つたら  
聞いてみよう！

「つたく。たしき、麦わらは絶対に此処に来る。」

「何で分かるんですか？」

「勘だ。」

「勘かよーー！」

「シシコミ入れてしまつたではないかーー！」

「誰だ。」

「モンキー・ロ・レオ。ルフィの弟だよ。」

「ええー？ 弟なんかいたんですかーー？」

「うふ。誰？」

「たしかにですーー。よひじくおねがいしますーー！」

「よひじくーー。」

握手しちゃつたよ。

「職業はなんですか？」

「賞金稼ぎ。」

「ああー！ “死神のレオ” ですよーー。」

「ええー？ そうなのーー？」

「知らなかつたのかよ。そのケムリンの言ひ通り、ルフィは来るよ。多分。」

「 「 「 「 「 多分かぬ………」 」 」 」 」

多くの海兵立つてしまれました。

## 16 義兄（後書き）

あ、一応言つておきます。今回話はやる気が在りません。  
今日、もう一つ更新するので。だって、今眠いし。

洋楽を大音量で聴いて睡魔に襲われないよひこしてゐるだけですから。

アラバスターに到着して一日。

昨日はエースとは会えず、兄を探している海軍さんにて、会ってしまった。

まあ、俺は賞金首ではないから捕まえられないから別に気にしないけどよ。

で、今日飲食店に入つたら、エースを見つけた。

「もぐもぐもぐ。……で、……でままでど、どに行つてたんだよ。」

？今まで何処に？

「お前が何処に行つていた！」

カラソカラソツ

「・・・！“火拳”！」

あ、スマーカーが来ちゃったよ。でも戦つてもエースが優位だな。

「ンンンン」

「・・・寝たああーーー？」

「はあ・・。こいつ、死んでないから大丈夫だよ。店長。」

「やうかい。」

「レオ、『火拳』は寝てるのか？」

「ああ。昔からだよ。」

「そうか。」

「 - - - - - 」

「今、何か聞えたよな？」

「そ、うか？」

「飯———！····！」

バゴオオオン！！

扉が吹き飛びルフィが飛んできた。

「おおー!? レオも居たのかー!」

ଶ୍ରୀ

「俺も居る！」

「...」

「無視されたな。ドンマイ。」「

「…………」怒

「がつがつがつがつ」

「……相変わらずだな。ルフィは、煙野郎ローグタウンに居ただ  
る?」

「煙野郎だと?・・確かにローグタウンには居たが。」

「間違った。ケムりんでいいや。ルフィがそう言つてしまし。」

「何?お前、あの時居たのか?」

「おう。ルフィが捕まっている時、田の前に居たけどな。」

「田の前に居て、賞金稼ぎなら捕まえてもいいだろ。手伝えれば良い  
のにな。」

「ちょっと期待していたから逃がした。」

「何の期待だ。」

「多分、ケムりんも帰つたら階級上がつたりして。」(笑)

「ああ?なんで上がるんだよ」

「勘だから理由までは分からないよ。」

「……なんだ。」

「げつ！ふあのときのふえふりん（あの時のケムりん）ーがつが  
つ・・ゴクン。」

「逃がさないぞ。ホワイトブローーー！」

「それはやらせないぞ。陽炎！」

「くそつ！火拳。何故邪魔する！」

「エ——ス——！——！」

「ルフィ、お前は無茶をたくさんしゃがつて。」

「エースー！！！」

「火拳！！」

ゴ才才！

「エース！ レオの所に飛んでる！」

「何！？」

「つたく。  
ウォーターウォル  
水壁」

水の壁で火から自分を守つた。

「能力者！？」

スモーカーが驚く。

まあ、煙は火も水も弱点だから勝てない。

「俺は、このグループで一番強いから。挑もうとするな。」

17 2回目（後書き）

変な終わり方をしてしまいましたースマッシュン・・・。

そういうえば今日地震が5：55に発生したみたいですね。

たまたま横に携帯電話が在って、揺れてから緊急地震速報のサイレン？が鳴りましたー。自分は意識が半分起きてたので聞きました。練馬区は震度2であまり揺れませんでした。

でも、夢の中（2つ目）では地震の夢だったのに現実だったのか分からなかつたよ。ちなみに正式に起きたのが10：30。夢を4つ見ましたー。

- 1・警備会社的な所に友達と一緒に見学。
- 2・地震（この場合、茨城でした）
- 3・ハワイ旅行（夢の中で基地に入つて兵士に捕まる。）
- 4・アメリカ軍基地？に居候。

この4つ、多分、繋がつてるんですよ。

でも、1つ目が面白かった。

電話の着信音がそれぞれ違うから友達と掛けまくつたけど、怒られた。（笑）

たまに、じつじつ夢がありますーっていづ、この小説とまったく関係無い余談でしたーー。

「あ！ルフィ！」

「ルフィ、ここに居たが

「！」海軍！？」

卷之三十一

口外傳聞の見方

鹿児島二

鹿しおれえ！トナガイだ！」

トナカイらしい。

前略

「おれはエリートだ！」

能力者？」

「そうだ！ヒトヒトの実を食べた人間トナカイだ！」

「へ～。かわいい。」

「べつ、別に嬉しくないゾー。コンニヤロ～！～！」

嬉しいのがバレバレだぞ？

「レオー！」

「なんだルフイ？」

「俺ら、今用事があるからまた後で会おうつなー。」

「ああ。分かった。」

「何言つてんだ！！死神！」

「良いじやねえか、ケムりん。」

「殺すぞ。」

「やつてみる。」

「この十手には海楼石が含まれてる。だからお前に勝てるゾ。」

「それはやらせねえ！」

エースが出てきた。ルフイは仲間と中央へ向かっていった。

「つたぐ。何故、自然系2人と対立しなければならない。」

「自業自得だ！」

「俺は自然系じゃないけど。」

「え？ はあ？」

「俺が食べた実は希少種だよ？」

「希少種……？」

「世界で四つしかない実か。厄介だな。」

「だから、俺は敵対しないって！」

「じゃあ、何故、麦わらを捕まえない？」

「え？ 兄だから。」

「は？」

「レオ。お前、ジジイと似てきたな。」

「なつー？ あんなじいちゃんと一緒にするなー。」

「じいちゃん？」

「気になるだろ？ が。」

「気になるだろ？ が。」

「…………。」

「レオ、俺も、ちょっと探検してくるー。」

走つて消えたエース。

この場に居るのは海軍と俺。

「中央に行つた方が良いかもな。さつきから金属音とか銃声聞えてきてるし。」

「おれも行く。」

「スマーカーさんー?」

「コイツは賞金稼ぎだ。海賊でもない。先に行かせて貰う。」

「おひ。」

18 一味と義兄と海軍と俺（後書き）

タイトル思ひ浮かばず。適当に。

## 15 BWのボス敗れる

ドオオオン・・・ガキイイイン

俺は今反乱が起きている中央広場にいるのだが。

「それにしても、生で見るとスゲエ反乱だな。」

その声に反応したのか、海軍、BW、王国軍、反乱軍、ルフィィとの仲間達以外の全員が戦闘を止めた。

「賞金稼ぎでも、これは無理でしょ。」

どつかの海兵が呟いた。

「あれは・・・！」

王国軍が俺に期待している。

反乱軍が王国軍の意見に反対する。

「王国軍ではなく俺らの味方になつてくれる筈だ！」

“死神のレオ”つて、私達と同じ賞金稼ぎゲロ！？

「はい、そうですよ。ミス・ファーザーズディ。」

「じゃあ、勝利は私達ね！ゲロゲロゲロ！」

あの変な2人組はBWだ。そつちは勘違いしてるとひだ。

「おい！時計台に居る変な2人組！俺はBWを潰すことが今の目的さ。残念だったな！」

「同じ賞金稼ぎだゲロ？」

「BWの最終目的はアラバスタ王国を手に入れるだろ？」

「うつ！……それがどうしたゲロ！」

「反乱軍はただのせられただけ。」

「なつ！…」

反乱軍が完璧に動きを止める。

「アラバスタ王女、ビビとアラバスタ王国護衛隊長イガラムの二人は命懸けでBWに潜入した。」

「王女……。」

王国軍も動きを止めた。

「ウイスキーピークで麦わら海賊団と此処に来ている！BWのボスは、」

「知っているのか！」

海軍は知らなかつた情報がどんどん出て来る為、聞いてくるが無視。

「王下七武海の一人、サー・クロコダイルだ！」

「…………？」

「だが、BWはアラバスタ王国を手に入れるだけではなく、ある兵器も手に入れたがっている。」

「兵器？」

「名前は言わない。BWの本当の田標は……」

「田標は？」

スマーカーが質問してくる。まあ、答えるから無視している。

「世界政府転覆だ！！だが、麦わらのルフィルフィが今そいつと戦つてい  
る！ルフィが勝たなければ未来は無い！」

「…………？」

「後、その爆弾は不発のだから。」

「何…………いつの間にか掏り返されてる…？」

長ツ鼻と協力したのだ。

言い切つたと同時に建物の中から人がとんで来て、雨が降つた。

ドサッ

ザザザザ――――――・・・・・

「ルフイが勝つたあああ！――！」

「ルフイ！」

『わあわわわわわわわわわわわわわ

長鼻が叫び、涙を浮かべて喜ぶビビ王女。

理解した、王国軍・反乱軍・国民がBWのボスが敗れた・BW崩壊の事と雨が降った事に喜んだ。

「ルフイ。よくやった。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6624y/>

零番隊長転生記

2011年12月5日19時52分発行